

No.65 川俣 正 —無題—

Tadashi Kawamata

北川フラムさんのコラム / 1997 (平成9) 年 3月 15日付 立川市市報記事より

川俣正のデビューは鮮烈だった。美術館や一般家庭の室内に、建築現場のような仮設を建てこみ、木材を下見張りのように貼っていくのである。あたかも建築空間をキャンバスに見たてて木材を色紙細工のように使っていく。作家はこの手法を使って建物全体、古い街全体、ついにはニューヨークのマンハッタン島までアート作品にしてしまった。

彼は仕事をする町の歴史や空間の特質を調べ、読み込み、そこにある空間を蘇えらすような仕事をする。

ファーレ立川では、地下室の出入口を金属で作った。

この一見工事現場の仮設建物のような美しい作品は、道路脇にそぐわないとの理由で移動させられたが、川俣正にとって珍しい仕事となって、今はファーレ立川の北西の端にたたずんでいる。